

科目名	施術概論 1							年度	2025	
英語科目名	Surgical operation outline 1							学期	前期	
学科・学年	柔道整復科 2 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	富田泰彦		教員の実務経験		有	実務経験の職種		医師（病院にて勤務）		
【科目の目的】 この科目で主に診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学ぶことで、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めることを目的とする。										
【科目の概要】 柔道整復師が現場で知っておくべき内因性疾患とその症状および治療について学ぶ。										
【到達目標】 医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。										
【授業の注意点】 国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	診察の意義・医療面接の意義について完全に理解している。	診察の意義・医療面接の意義について大体理解している。	診察の意義・医療面接の意義について部分的に理解している。	診察の意義・医療面接の意義についての理解がやや不足している。	診察の意義・医療面接の意義について理解していない。					
到達目標 B	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について完全に理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について大体理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について部分的に理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法についての理解がやや不足している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について理解していない。					
到達目標 C	生命徴候について完全に理解している。	生命徴候について大体理解している。	生命徴候について部分的に理解している。	生命徴候についての理解がやや不足している。	生命徴候について理解していない。					
到達目標 D	感覚検査について完全に理解している。	感覚検査について大体理解している。	感覚検査について部分的に理解している。	感覚検査についての理解がやや不足している。	感覚検査について理解していない。					
到達目標 E	反射検査について完全に理解している。	反射検査について大体理解している。	反射検査について部分的に理解している。	反射検査についての理解がやや不足している。	反射検査について理解していない。					
【教科書】 教科書（一般臨床医学第2版-社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

